

現状の課題

- ・英語の指導に教員が苦手意識を持っていること。
- ・活動は楽しく、友だちとやりとりをすることは好きだが、人前で発表をすることに苦手意識を児童が持っていること。

具体の取組の内容

- ①教員の指導力向上のために、小中合同研修・スタンダード（共通授業スタイル）作成・スモールトーク研修の実施。
- ②英語に親しむ機会を増やすために、CAN-DOリスト作成と活用・主体的に活用できる掲示物作成・実態調査の実施。



成果①

もっと表現の仕方を知りたい

24% 6月

89% 11月
(6年実態調査より)

○「活動が楽しい」と感じていた児童が、研究が進むにつれ、「もっと表現の仕方を知りたい」と児童が感じるようになり、次への意欲が醸し出されたこと。

成果②

○やるべきことが明確になり、教員の苦手意識が薄れてきたこと。

○CAN-DOリストがあることで、共通の指標となり、児童の変容も把握しやすくなったこと。

○ALTによる校内放送やビンゴカード、掲示物により、日常生活の中で、英語を自発的に発する児童がでてきたこと。

今後の課題・方向性

○やりとりの充実のためには、会話の中で必要となる語彙を引き出す工夫が必要。

○「できなかった」という思いを「次にはできるように学びたい」と意識できるように、教師の指導および授業展開の工夫が必要。

○有効だったスモールトーク研修を継続する。

○英語に親しむ機会を増やすことを継続する。